



浅間牧場を下り、北軽井沢地区に行くと、その中央の四辻にレトロな建物がありました。それは廃線となった旧草軽電気鉄道の「北軽井沢駅」で、創業当時の建物が保存されています。その横におもちゃのような可愛い機関車がありました。駅舎の窓口、切符、時刻表、出札口など、ノスタルジックな思いに駆られる昔懐かしいものでした。草軽電気鉄道とは、1915年(大正4年)に開業した、軽井沢と草津温泉を結ぶ、集電装置を機関車に設置した鉄道です。路線距離は55.5km、所要時間2時間半~3時間とのことですが、1960年頃から漸次廃線となりました。北軽井沢は丁度中間地点でした。

近くの観光協会で詳細な年表、地図、模型がありました。K子さんには懐かしい草軽電鉄です。小学校1年生の時、K子さんは、祖母の住む軽井沢に縁故疎開しました。山を越えて学校に通い、炊事に川の水を汲んだそうです。山深い、素朴な美しい自然に囲まれて過ごしたことが、彼女の山荘生活の基盤になっているようです。その最寄り駅が草軽電鉄の「小瀬(温泉)駅」でした。

では、お次は温泉というわけで、源泉かけ流しの鬼押温泉である軽井沢倶楽部ホテル1130に直行となりました。ところが道は山道で、どこも似通っているし、標識も見当たらず、ついつい迷子に。けれども道草は発見だらけで、楽しいものです。私は意味は違ってもかもしれませんが、「すべての道はローマに通ず」と昔習って以来、楽天的になり、必ず辿り着くと思って呑気に走ります。

露天風呂では、裸になって、木々や空を眺めながら、お湯に浸かるだけなので、無防備であるだけに、至福のくつろぎ感を得られるのでしょうか。すっかり体がほぐれた感じがしてきました。高齢化に伴い、旅に出たら、温泉を楽しむのは私にとって必須の条件となってしまいました。

風呂上がりにラウンジでK子さんの友人ご夫妻と歓談しました。初めてお会いしましたが、親切で開放的で、話が弾みました。吟醸酒を開発された方とのこと。今夜のワインはこの方のお薦めの銘柄です。



紅葉のシーズンとはいえ、北軽井沢では、緑が濃く、黄色の紅葉がチラホラ目に付くくらいです。目を引いた赤い色は、セイヨウマユミとナンヨウイヌカンコで、実も拾いました。マユミはエルミタージュにもありますが、紅葉を見たことがありません。北軽井沢では葉の色も見事でした。

